人を実らせ、町が芽生える長ぐつアイスホッケー。

～ 長ぐつアイスホッケーを通じて、町民がスポーツを楽しみ、スポーツとともに人生を歩めるまちに。 ～

令和９年度 発祥50周年！

スポまち！表彰2026
④北海道釧路町

＜目標＞　計画期間：～令和　１１年３月３１日

『長ホ』を楽しむ町民
する、みる、ささえる、応援する、参加する、体験する等様々な関わり方で『長ホ』を楽しむ。

育った人・つながり
『長ホ』を通じて、地域を支える人材が育つ。他分野で活躍する人材がうまれる。

新たな挑戦・出会い
つながりの中から新しい挑戦や担い手、活躍の場がうまれる。

次世代への継承
地域で育った人材や組織が、次の世代・新たなスポーツへとバトンをつなぎ続ける。

KPI指数　関連大会・事業の実施数（R9.3 2回→R10.3 3回→R11.3 5回）　大会の参加者数（R9.3 1,300人→R10.3→1,350人→R11.3 1,400）
関連事業の参加者数（R9.3 300人→R10.3 500人→R11.3 550人）　関係スタッフの参画者数（R9.3 100人→R10.3 120人→R11.3 125人）

＜ＰＲポイント＞

① **『長ホ』は、釧路町が誇る唯一無二の地域資源！**
② **『長ホ』で人を育て、まちのスポーツが育つ！ ➡『長ホ』から育った木の実が、新しい挑戦、担い手、活躍の場につながっている。**
③ **『長ホ』をみんなで育て、未来へつなぐ！ ➡ 多様な主体が協働し、発祥100年を目指し継続する仕組みを確立、強化する。**
④ **『長ホ』で町のエンゲージメントを向上する！ ➡『長ホ』を楽しみ、支え、応援し、広げる人が育つ＝人づくり・まちづくりへ**

＜現状・課題＞

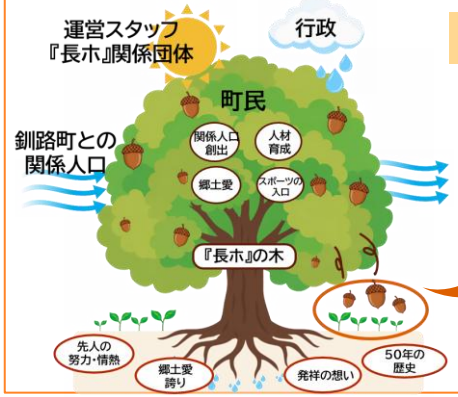
▲課題
- 人口減少や少子高齢化の進行
- こどもや働き世代のスポーツ離れ
- 多様なスポーツ機会の不足
- 地域コミュニティの変化によるつながりの希薄化
- 『長ホ』参加者の増加と裾野の拡大や次世代への継承

★現状
- 発祥の地という唯一無二の地域資源
- 誰でも楽しめるコミュニティスポーツ
- 世代を超えて人をつなぐ存在（風土）
- 人材育成や地域コミュニティの活性化に寄与
- 郷土愛を醸成
- 全国に関係人口を創出

＜総合的な取組内容＞

『長ホ』を通じて「スポーツ人材」が育ち、その人がまた地域のスポーツを育てる循環をつくる。

令和９年度の発祥50周年を契機に、これまで培ってきた「人・組織・つながり・文化」を次の50年へ継承し、町民がする・みる・ささえるなど、様々な形でスポーツに関わり続けられる環境をつくります。



『長ホ』の木の実は、まちの可能性。

① 『長ホ』×次世代育成
町のこどもはみんな『長ホ』を知っている。
- 小学校の冬の体育で『長ホ』をもっと活発に！
- 『クロスアイス長ホ』(4人制)の実施で小さなこどもも参加可能に
- 『長ホ』教科書の配布や活用
- 運営スタッフ・審判・関係者を育成

② 『長ホ』×関係人口づくり
発祥の地を全国の『長ホ』仲間の聖地へ。
- 全日本選手権大会を開催！（全国の愛好者が交流を深める）
- 全日本長ぐつｱｲｽﾎｯｹｰ連盟の設立
- 全国の愛好者や団体とのつながりを強化（釧路超民登録促進）
- 夏の『長ホ』大会を実施
- 情報発信強化・仕掛けづくり
- ガッホくんを活用したPR

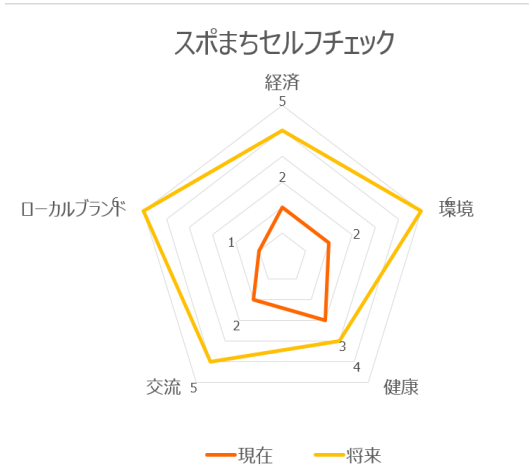
③ 『長ホ』×まちづくり
『長ホ』があるまちを町民みんなで楽しむ。
- 50周年大会をお祭りに！
- 大会に参加しない人も楽しめる事業を実施（しばれるランド）
- 地域団体・企業・行政が連携
- 『長ホ』を軸に地域コミュニティを活性化
- ハード面を整備し長く愛される環境を整備

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

『長ホ』をみんなで育て、未来へつなぐ推進体制。



＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和８年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

釧路町教育委員会社会教育課スポーツ係
0154-62-2301